

【序文：シンポジウムの背景，シンポジウム開催時のようすなど】

檜田美雄・佐伯明彦

ここに掲載するのは，平成13年2月18日に，徳島大学授業改善経費（共通教育・ボランティア論）の支援を受けて開かれたシンポジウム『地域とボランティアの未来』の部分記録（質疑応答を含む）である。なお，本稿に第二報告（久保田報告部分）は含まれていないが，書き言葉にされ論文化された形で本誌中に掲載されているので，あわせてご参照頂きたい（題名「徳島県におけるボランティア活動とボランティア組織」）。

この企画の背景には，「ボランティア」に関わる徳島県社協と連携した徳島大学総合科学部地域システムコースの取り組みがある。以下，みじかくこの取り組みの内容を解説しよう。

短期的には，阪神淡路大震災以降，すこし長期的には1980年代以降の「政府の失敗」と「市場の失敗」の両方を受けて，徳島県においても，行政でも企業でもない主体，すなわち，「NPO」および「ボランティア・グループ」への関心が高まってきていた。「とくしまボランティア推進センター」は，県内各地のボランティア・コーディネーターと連携して活動する徳島県社会福祉協議会のランチであるが，平成12年9月には，『第9回全国ボランティア・フェスティバルとくしま』を成功させ，活発に活動を行っていた（佐伯はその中核スタッフであった）。その一方で，伝統的なボランティア活動組織である地域の老人会などからは，ルーティーン化した現在の清掃活動などのボランティアは，魅力が乏しく，リーダー層の調達難などから，もはや活動を維持することが困難であるという声も挙がっていた。同様に，県の長期計画中のボランティア関係の部分を担当する「とくしまボランティア活動推進計画策定協議会」（前野氏は協議会副会長，檜田も委員であり，久保田報告のもとになった調査の依頼主体もこの協議会）においても，行政的ではない市民と企業の創意と工夫が活かされたボランティア活動グループの養成の必要性や，そのようなボランティア活動と結びついた新しい社会の可能性などが話合われていた。

ちょうど、このようなボランティアに関わる地域社会的な課題があきらかになりつつあるなかで、そういう課題の解決に貢献できる組織として、徳島大学では、総合科学部に、「地域システムコース」の設置を決めていた（平成13年度からの設置を平成12年度夏に決定）。檜田・久保田・樋口は、この新設の地域システムコースの教官スタッフである。地域システムコースでは、ボランティアセクターで働く人間だけではなく、ボランティアセクターと行政、ボランティアセクターと民間営利企業との間を取り持つ人材の養成をはかることになっており、そのための専門科目として、「ボランティア組織論Ⅰ」と「ボランティア組織論Ⅱ」の2科目の設置が決まっていた（平成14年度から）。また、共通教育においては専門科目に先行して、平成12年度から「ボランティア論」をたち挙げており、この科目の運営も地域システムコース所属教官が担っていた。

上記のように、ボランティアに関しては、地域に検討すべき課題があり、かつ、その課題は大学における学的検討を待っていた。これらの情勢をうけて、本シンポジウムは構想されたのである。

シンポジウムのプログラムは、佐伯（とくしまボランティア推進センター次長＝当時＝）と檜田（徳島大学総合科学部）が共同企画者となって構想した。その結果、以下の企画で進めることになった。すなわち、①企画を実現するために二人が共同司会となる。②社会学・社会福祉学研究者である武蔵大学の藤村正之氏に、ボランティアに関する理論的な報告をしてもらう。③ついで、久保田滋氏に、徳島県の現況を調査に基づいて報告してもらう。④その後、徳島県内のボランティア活動の実践の様子を、吉野川流域（県北）の脇町と、高知県もほど近い（県南）海南町のボランティア関係者からうかがいつつ、フロアと討論を進める、という企画になった。

当日の議論は白熱し、予定の時間を大幅に超過して、終了は17時半であった。シンポでの議論の内容に関しては、本文を見て欲しい。なお、文中の「小見出し」は、本紀要への掲載にあたって各執筆者が作成したものである。言い回しも若干変えてある。また、今回の討議の様子はHI8のビデオテープによっても保存されている。関心を持たれた方は檜田（電話&FAX：088-

656-9308=研究室直通=, 電子メール:kashida@ias.tokushima-u.ac.jp)  
までご連絡頂きたい。実費でのビデオダビングと郵送のサービスを行う予定  
である。

## ボランティア組織化の条件をさぐる(講演の部)

藤 村 正 之

### 0. はじめに

武蔵大学の藤村です。本日は報告の機会をいただき、ありがとうございます。  
した。

徳島大学からお招きをいただいたのですが、私、全国47都道府県のうち  
行っていないところが5県ございます。その1つが徳島でございまして、全  
国行脚の地図を塗りつぶす意図も兼ねてお邪魔させていただくことにしまし  
た。残りの4県はどこかといいますと、高知と大分、長崎と佐賀ということ  
になります。九州にまとめていかせていただく機会があれば一気に全国制覇  
達成ということになるかもしれませんが。

今回、シンポジウム全体のテーマが、「地域とボランティアの未来」となっ  
ております。私も社会学の世界で勉強してきて、ボランティアに関しての調  
査研究をしたり、自分自身が1ボランティアとして若干関わった経験があっ  
たりいたしますので、それらを整理するような形で、今回のお話をさせてい  
ただければと思っています。ただし、当然ボランティアにもさまざまな種類・  
形態がありますし、NPO活動に広がる問題もあります。また、全体動向に  
かかわるマクロな議論から、現場のノウハウみたいなお話まで、レベルもい  
くつかあります。今日は、私の後の3人の方々のお話もありますので、話題  
提供風に、経験およびアイデアの交流みたいなものができればと思ってお  
ります。

本日は大きく3点の話題設定を予定しております。第1は、「現代日本のマ